

高齢者と装い 〈第4報〉

—老人ホーム利用者の知的興味に基づく服飾品の製作を通して—
山岸 裕美子（群馬社会福祉短期大学）

【目的】高齢者は身体機能の低下や社会からの引退などにより、自らの存在を主張する場を喪失しつつあると言えよう。しかし、自身の「生活史」を統合する時期にあればこそ得られる満足感もあると考えられるのである。そこで、人生経験の中で培ってきた知識・感性・技能を用い新しい表現を行うために、高齢者に対し知的理解に根ざした服飾品を製作（創作）し、装う提言と試みを行った。

【方法】造形芸術作品（染織・工芸品）の意匠を用いたアクセサリーを製作する活動を行ったが、製作のあらまは①筆者が服飾史・服飾美学的解説を行う。②それぞれの作品の意味を踏まえながら、予め準備した材料の中から図柄を選んで製作を行う。③完成後に全員で意見交換を行う。④作品を実際に身につけて装う。というものである。対象は、群馬県内にある有料老人ホーム・軽費B型老人ホーム利用者とした。

【結果】おしゃれに関するものの製作を行ったため、お互いアドバイスし合いながら進められ、今まで表層的な間柄でしかなかった利用者同士が自己を表出できる関係となり、普段の生活においても親交を深めるようになった。また製作品に対しての知的満足感をも獲得し、それを装いに取り入れることにより、より大きな自信を持つことができた。